
令和5年度 第2回豊田市産業振興委員会 会議録

【日 時】 令和6年3月28日(木) 13時30分～15時00分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室及びオンライン

【出席者】 <委員>

山田 基成〔名古屋大学名誉教授〕〈会長〉
三宅 英臣〔豊田商工会議所会頭〕〈副会長〉
石崎 正樹〔トヨタ自動車株式会社総務部渉外室室長〕
内田 敬久〔愛知工業大学キャリアセンター長
工学部機械学科教授〕
尾村 明俊〔豊田信用金庫副理事長〕
兼重 明宏〔豊田工業高等専門学校機械工学科教授〕
樹神 康之〔豊田商工会議所第一工業部会部会長
株式会社豊栄商会 代表取締役社長〕
近藤 純子〔近藤工業株式会社 代表取締役社長〕
坂本 和子〔法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科
教授〕
杉浦 栄二〔豊田商工会議所 第二工業部会 部会長
豊田化学株式会社 代表取締役社長〕
照井 清一〔株式会社アイリンク 代表取締役 中小企業診断士〕
中川 幸臣〔あいち産業科学技術総合センター所長〕
長谷川 功〔上郷鉄工会会長
株式会社アイミクロン代表取締役〕
弘中 史子〔中京大学総合政策学部教授〕
松元 篤志〔小島プレス工業株式会社執行役員〕
渡邊 寿也〔協同組合豊田市鉄工会理事長
大東工業株式会社代表取締役社長〕

(計16名)

【事務局】

西脇 委千弘〔産業部部長〕
脇迫 博文〔 “ 商工振興室長〕
川合 晃司〔 “ 産業労働課長〕
福岡 員祥〔 “ 次世代産業課長〕 他

【傍聴人】 0名

- 【次第】
- 1 開会
 - 2 豊田市あいさつ
 - 3 豊田市産業振興委員会委員委嘱
 - ・委員委嘱
 - ・会長及び副会長の選任
 - 4 議題
 - (1) 豊田市産業振興プラン 2021-2024 の取組状況について（報告）
【資料 1 - 1 ~ 3】「豊田市産業振興プラン 2021-2024」の取組状況について（報告）
 - (2) 産業実態調査等の分析について（報告）
 - (3) 次期産業振興プランの方向性について（協議）
 - 5 閉会

【議事録（要約）】

1 開会

- ・事務局より開会を宣言

2 豊田市あいさつ

○西脇部長

本市を取り巻く自動車産業の状況について、一時期はカーボンニュートラルに向け、世界的には電気自動車一辺倒という流れで進んでいたが、最近少しその方向性も変化してきているようである。働くことに関しては、2024 年問題や人材不足、働き方改革等、大きな状況の変化が起きている。

今回、そのような中で、豊田市産業振興プラン（以下、「プラン」という。）の改定の時期が再来年度に迫っている。今後、プラン策定に向け準備を進めることとなるが、その前段として、本日の委員会ではプランの方向性についてご検討をお願いしたい。本市の産業に寄与するようなプランを策定するため、委員の皆様には、それぞれの立場で忌憚のないご意見を頂きたい。

3 豊田市産業振興委員会委員委嘱

○事務局

この度、任期満了に伴い委員の改選を行った。ここで、第 9 期産業振興委員会委員

に就任いただく皆様をご紹介させていただく。お手元の資料の委員名簿にある 16 名の皆様に委員をお願いしたいと思っている。任期は本日より令和 8 年 3 月 27 日までの 2 年間となる。本来であれば、お 1 人ずつご紹介の上、委嘱状を手交するところだが、時間の関係上、机上配布とさせていただく。また、オンライン参加の皆様につきましては、委嘱状を事前に送付させていただいている。

なお、今期から 2 名の委員が新たに選任されているため、ご紹介させていただく。

○A 委員

今回より参加させていただく。豊田市を含む県内の関係自治体の窓口を担当させていただいている。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、愛知工業大学 キャリアセンター長 兼 工学部機械学科教授、内田様、一言ごあいさつお願いします。

○B 委員

キャリアセンターという部署は、学生のキャリア形成や就職支援に関連する部署である。そういった目線でお話しできればと思っている。よろしくお願いいたします。

○事務局

会長及び副会長の選出をお願いしたい。会長につきまして、どなたかご推薦いただけないか。

○C 委員

前回に引き続き、山田委員にお願いできたらと思いますが、いかがか。

○事務局

会長に山田委員をご推薦いただいたが、皆様、よろしいか。

○委員全員

異議なし。

○事務局

ありがとうございます。皆様のご同意により、会長を名古屋大学名誉教授 山田基成様にお願いすることに決定した。続きまして、副会長につきまして、どなたかご推

薦いただけないか。

○D 委員

前回に引き続き、三宅委員にお願いしてはどうか。

○委員全員

異議なし。

○事務局

以降の取り回しを山田会長にお願いしたい。

○山田会長

西脇部長から人材問題等のお話を頂いた。急速に様々な技術が進歩する中、とりわけ AI 等の技術の産業への活用方法について、中小零細企業にもこのような新たな動向をご理解いただき、ご自身の経営に生かしていただけるようなプランが出来ないかと個人的には思っている。是非お知恵を頂きたい。よろしくお願いしたい。

4 議題

<報告事項>

(1) 豊田市産業振興プラン 2021-2024 の取組状況について

○事務局

令和 3 年度策定した「豊田市産業振興プラン 2021～2024」について、進捗状況を報告。

(資料 1 - 1 ～ 3 「産業振興プラン取組」により説明)

○山田会長

質問・意見がある方は挙手をお願いしたい。

○B 委員

施策 4 「デジタル×ものづくりカレッジ」に関して、テーマはどのように決めているのか。

○事務局（次世代産業課）

テーマはベーシックテーマ、アドバンステーマを設けている。ベーシックテーマは、

豊田高専の先生方から提供いただいている。例えば、「機械の稼動を測るにあたって、どのような機器を取り付けてどのようなシステムを構築すれば測ることができるか」等である。アドバンステーマは、受講生自らテーマを設定し、開発に取り組んでいる。

毎年、定員 10 名としているが、好評で申込数も多いため、毎年 15 名以上の方に受講していただいている。

○A 委員

人手不足はサプライチェーン全体に係る問題であり、様々な施策を講じていただけるようで、大変ありがたい。

職種に関して、製造現場で働く方と、バックオフィスの方を比較したとき、前者の方が採用しづらい印象である。今後の人口減少に鑑みると、就業地としてこの地域を選んでもらえるかが重要である。ご紹介いただいた施策の対象はバックオフィスの方の印象が強いと感じた。製造現場で働く、所謂ものづくりを担う方の能力向上等に関連する施策は、どれに該当するのか。

○事務局（産業労働課）

施策 10「地域産業の担い手確保支援事業」に対するご質問と承知した。製造現場の担い手の人材確保に焦点を当てた事業として「地域連携インターンシップ」や「みんなの職場体験」等があげられる。子供の頃からものづくり体験をしていただく機会を提供するもので、地元のものづくり事業者の実際の現場に赴き、簡単なものづくり体験や工場見学等のプログラムを実施している。こうした事業により、将来の担い手である子供たちに、ものづくりを好きになってもらえるよう取り組んでいる。なお、建設業においても、建設現場の見学等に取り組んでいる。

また、施策 3「中小企業経営力高度化事業補助金」では、人材確保に係る補助メニューとして、求人サイト等の利用に係る経費を補助している。

○E 委員

「カーボンニュートラル促進事業」は重要な施策であり、国の施策とどのように棲み分けていくのか。

○事務局（産業労働課）

記載の「カーボンニュートラル省エネ生産設備導入支援補助金」でいうと、棲み分けは 3 点ある。1 点目は規模である。補助上限額が国の補助金のほうが高いため、高額な投資であれば、国の施策を活用された方が良い。

2 点目は募集期間である。国の申請期間は一定期間に限られているため、それを逃

すと応募できない。一方、豊田市は、事業の申請期間中、随時受け付けるため、融通が利く。

3点目は採択率である。制度にもよるが、国の場合、採択率が半分を切るものも少なくない。一方、豊田市の施策に関しては採択率も高く、利用いただきやすいと思う。

OE 委員

中小企業の方が使いやすい形になっていて、国のものをサポートする形になっていると伺ったので、ぜひそのあたりがより周知されて広く使われるといいのではないかと。

OD 委員

施策6「ものづくり創造補助金」の採択企業について、スタートアップが0件となっている。次年度には、名古屋市で StationAi がスタートする。ものづくり系のスタートアップは初期投資が大きく、なかなか難しいという感覚はあるが、ものづくりのまちの豊田市として、スタートアップ育成に関する課題をどのように捉えているか。

○事務局（次世代産業課）

「ものづくり創造補助金」にはスタートアップからも申請があったが不採択という結果となっている。今年度、ヒアリング調査を進める中で、当該補助金は対象経費を限定していることから、スタートアップにとって使いづらいことが分かった。

次年度以降、スタートアップが事業化を図る中で、どのような支援が必要か、新しい枠組みを考えていきたい。当市はものづくりのまちであり、そのような企業が発展できるよう、地域企業とスタートアップの技術が組み合わさることで産業の発展に繋がっていくことができないか考えている。

<報告事項>

(2) 産業実態調査等の分析について

○事務局

（【資料2-1】統計データ集、【資料2-2~3】クロス集計、【資料2-4】経年比較、【資料2-5~10】各調査概要・本編の説明）

OF 委員

物流関係のアンケートの対象が60社となっているが、自社でかけた物流企業のアンケート結果（160社・西三河中心）があるので、参考データとして提供させてい

ただきたい。

○三宅副会長

ミルクラン方式と受注量の設問に関して、ミルクラン方式の普及に伴い受注量が減少しているとなっているが、ミルクラン方式が普及することで、トラックの積載効率が低下するため、結果的に受注量が増えると思うが、いかがか。

○事務局（産業労働課）

ミルクラン方式は自動車部品の調達物流全体の効率化を目的としている。

今回のアンケート調査は調達物流全体ではなく、物流事業者の個社単位での取扱量の変動を把握している。ご指摘頂いた物流事業者全体を見た時の仕事量の変化は把握できていないため、別途検討課題とさせていただきたい。

<協議事項>

（3）次期産業振興プランの方向性について

○事務局

（資料3「次期産業振興プランなどの策定に向けた目指すべき方向性の論点について」の説明）

○OC委員

資料から、豊田市の産業の目指す方向性、プランの方向性は理解できるが、きれいな言葉が並んでいるだけで、最終的にどこを目指しているかが、みえてこない。このプランにより、豊田市の産業がどうなるか、もう少しわかりやすいイメージを検討いただけると良いと思う。

例えば、人材確保について、少子化が進むと、県外など外からの労働力確保が難しくなるのではないか。そうなると、当地域周辺の優秀な人材を確保していく必要がある。当地域で就職してもらうための土壌づくりが必要であり、行政として産業部門だけでなく、教育委員会等との連携を図り、低年齢のうちから産業に関わることができると取り組みを進める必要がある。

また、カーボンニュートラルに関しては、カーบอนをどのようにコントロールしていくかが肝要となる。今後、カーボンフットプリントが明示されている製品でなければ、世界では取り扱ってもらえなくなる可能性がある。今回のアンケート調査結果を見ると、「カーボンニュートラルについて知らないし、必要性もない」という中小企業の回答が一定数みられる。取引先から要請されれば対応するかもしれないが、それで

は時すでに遅し（機会損失）となる可能性がある。

もう少し「近い将来のあるべき姿」を見据えながら、プランを策定できればと考えている。

○G 委員

プランの基本方針「不確実な社会経済情勢下での持続的発展」に関する基本施策・個別事業のイメージとして「サプライチェーン強靱化」が含まれていると思う。

アンケート調査結果をみると、サプライチェーン強靱化の意識はまだまだ十分でないと感じた。特に取引の適正化を進めていくこと、当地域の大企業は非常に努力されていると思うが、更に中堅・中小企業においても、取引適正化の取組が一層進めば、小規模事業の下支えとなり、サプライチェーンの強靱化に繋がって行くのではないか。

○E 委員

これまでの取組をみていて感じたのは、事業者の取組と施策にミスマッチが生じているという点である。

ものづくりスタートアップは、こつこつ売上を上げていくため、IT系のスタートアップに比べて成長スピードが遅い。StationAiをはじめ、短期間でスケールする事業に対する支援はいくつもあるが、中長期的に拡大する事業に対する支援はあまりみられず、そのような支援を進めていくことが求められる。

例えば、当地域の高い技術力を持つ中小企業は、新規事業に取り組みたくても本業があるため、スピード感をもって取り組むことが難しく、そのような企業とものづくりスタートアップをマッチングさせるニーズ、支援するニーズはあるのではないか。

「新規事業創出」や「創業支援」がうまくかみ合っていないと感じるため、次のプランではこの点を踏まえていただき、人が豊田市に集まってくるような、活性化するようなものができたら良いと思う。

○山田会長

個人的な理解で申し上げますと、創業は大事だが、創業後、事業を大きくさせるための様々なパートナーが必要であり、そのような人材を結びつけるような仕組みがなければ、エコシステムは形成できない。

○E 委員

創業者にうまく伴走できるような仕組みを組み込んでいただけると良いと思う。あわせて補助制度も上手く組み込んでいただけると良い。

○H 委員

いつもプライオリティの話しをさせていただいている。資料は、テーマが網羅されているが、何が重要で何から取り組むべきか、見えづらい。他の地域と同じことを打ち出しており、豊田市独自のプライオリティがわかりづらいようにも感じる。

私の所属先でディスカッションしているテーマの一つに（社会課題を解決するためのスタートアップ等による）ソーシャルイノベーションがあげられる。本日の資料に含まれていない概念であるが、マーケティングの専門家としてプランにストーリー性を持たせることも必要だと考える。ソーシャルイノベーションのように、何かを打ち出し、どのように社会へインパクトを与えるかを示されていた方が良い。

○A 委員

C 委員の話のとおり、若者の嗜好変化もあり、製造業は選ばれない傾向にある。今後、生産労働人口が減る中で、当地域に来てくれて、就労し続けてもらうという意味では、狭義の産業施策だけでなく、「まちの魅力を上げる」という観点で、医療や介護、子育て等、暮らしやすさをアピールし、当地域からの転出を防ぐ、という考え方が大事だと思う。

5 閉会

○三宅副会長

豊田市は自動車産業のまちである。自動車産業は 100 年に一度の大変革を迎えているといわれている。トヨタ自動車は、国内生産 300 万台を死守するといわれているが、今後、その内訳が相当変わっていくのではないかと。BEV への移行により、部品点数は 2/3 になるといわれている。一方、エンジン関連部品などの業種が衰退することは指摘されているが、それに変わる産業を誘致する議論にはなっていない。

スタートアップは直ぐに育つ訳ではなく、豊田市が今後も自動車産業のまちとして進んでいくのであれば、産業構造の転換に対応していかなければ、市内企業の仕事は着実に減ってしまうため、10 年後を見据えて検討を進めていく必要がある。

一方、社会潮流として DX があげられる。DX は診断のツールであり、治療はおこなえないため、費用対効果を考えると中小企業における導入が進まないのではないかと。いずれは DX の時代が到来する。それを理解しつつ、絵に描いた餅にならないよう、一層のご協力をお願いしたい。

○山田会長

本日の議論の中でご指摘のあったように、プランの方向性として、2030 年を目標

とした、あるべき姿を描く議論を一度実施した方が良い。

また、人材不足に関する問題に関して、外国人の活用をあらゆる階層、すなわち高度な技術者から現場の作業者レベルまで進めていく必要があり、それを一括りに「外国人」と呼ぶのは難しいのではないか。人手不足が明白な中、日本人と外国人の区別のない社会を目指すことが重要である。豊田市だけではなく、日本全体で不可欠だと思う。

○事務局（産業労働課）

後日、本日の会議録を確認のため送付するので、ご確認いただきたい。

次年度は時期産業振興プランの策定年度であり、令和6年7月、11月、2月を目途に合計3回程度を予定している。日が近づいたら、出欠の確認をさせていただく。

以上